



# The Baseball Hall of Fame and Museum

## 公益財団法人 野球殿堂博物館

### 平成27年 野球殿堂入り表彰式

館長 廣瀬 信一

今年野球殿堂入りをされた、古田 敦也さんと故・林 和男さんの表彰式を7月17日(金)に東京ドームで行われたオールスター第1戦の試合開始前に行いました。

競技者表彰・プレーヤー表彰で選出された古田さんは、社会人野球のトヨタ自動車時代に、ソウル・オリンピックに出場し、銀メダルを獲得されました。プロ入り後は、頭脳派捕手としてヤクルトの黄金時代を築かれ、大学・社会人を経てプロ入りした選手として初めて2000本安打を達成し、チームのリーグ優勝5回、日本一4回に貢献されました。

特別表彰の林さんは、日本リトルリーグ創設に尽力され、さらにリトルを卒業した子供達に高校野球まで継続して硬式野球ができるよう、調布シニアを設立いたしました。亡くなるまで現在の日本リトルシニア中学硬式野球協会の会長職を務め、少年野球の普及を推進されました。

両軍の選手・監督・コーチが各々ベンチ前で整列し、場内アナウンスで古田 敦也さん、林さんのご長男・清一さんがスクリーン映像の紹介とともに登場されました。

始めに、(公財)野球殿堂博物館・熊崎 勝彦理事長より記念のレリーフのレプリカが各々に贈られました。次に、花束贈呈が行われ、古田さんにはヤクルトでバッテリーを組まれ、現在は同球団の投手コーチである、高津 臣吾さんから、林さんには元ヤクルト投手で、1976年に調布リトルが世界選手権大会で優勝した時のエース、荒木 大輔さんより贈られました。

記念撮影に続き、古田さんから「本当に光栄に思います。多くの指導者の方にお世話になりました。」と感無量の様子で感謝の言葉が述べられ、スタンドに向かい「これからも日本の野球を応援してください。これからも愛してください。」と挨拶されました。続いて、林さんからは、「日本野球界最高の栄誉。天国の林 和男に伝えたい。」さらに、球宴に出場している巨人・阿部 慎之助選手、阪神・鳥谷 敬選手らの名を挙げ、「みんなリトルシニアのOBです。林 和男の志を忘れることなく、日本野球界の発展に尽くしたい」と挨拶され、満員の客席からお二人に対し盛大な拍手が送られました。



左から 高津 臣吾氏、古田 敦也氏、熊崎 勝彦理事長、林 清一氏、荒木 大輔氏

## 野球殿堂博物館 2015年夏休み企画

### 「野球で自由研究！」

・期間 7月17日(金)～8月31日(月) ・会場 図書室ほか

野球には、歴史や野球用具、野球場など小・中学生の自由研究のテーマになるものがたくさんあります。当館では今年も夏休みに小・中学生の自由研究をサポートする「野球で自由研究！」を開催します。図書室では、自由研究のテーマになりそうな歴史や用具、野球場などの資料を集めて、小・中学生をサポートします！スタッフがいますので、わからない事があったら何でも聞いてください！また、当館スタッフによる「ミニミニ実験コーナー」を今年も行います。

### ミニミニ実験コーナー

- ・開催日 7月31日(金)～8月31日(月)のうち当館でイベントのある日を除く。  
詳しくは、当館ホームページでご確認ください。
- ・時間 14:00～、15:00～(各回20分程度)
- ・場所 野球殿堂ホール



昨年の様子



### トークイベント②「夏休み 審判学校！」

- ・日時 8月3日(月)、8月10日(月)  
両日とも13:00～(2時間程度)
- ・会場 野球殿堂ホール
- ・講師 野球規則委員、元NPB審判長 井野 修 氏  
NPB審判長 友寄 正人 氏  
審判技術員、元NPB審判員 山崎 夏生 氏  
審判技術員、元NPB審判員 平林 岳 氏



昨年の様子

※なおトークイベント「野球の記録をつけてみよう！」は7月30日に実施しました。

### 「バット製作実演」

- ・期間 8月18日(火)、19日(水) 11:00～12:00、13:30～14:30、15:00～16:00予定
- ・会場 野球殿堂ホール ・協力 ミズノ株式会社

今年もバット削りの実演を開催します！

ミズノ株式会社のご協力により、クラフトマンによるバット製作の実演に加え、バットにまつわるいろいろな質問にもお答えします。自由研究の題材におすすめのイベントです。



過去の開催時の様子

### 「平成27年 野球殿堂入り特別展」

・会期 ～9月27日(日) ・会場 野球殿堂ホール

古田 敦也氏、林 和男氏、村山 龍平氏の野球殿堂入りを記念して、「平成27年 野球殿堂入り特別展」を開催中です。3氏ゆかりの資料や写真を展示し、経歴や記録などをご紹介しております。

### 特別展 「高校野球と野球殿堂」

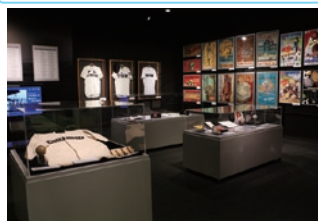
- ・会期 ～9月6日(日) ・会場 企画展示室
- ・主催 公益財団法人 野球殿堂博物館
- ・協力 公益財団法人 日本高等学校野球連盟  
朝日新聞社、毎日新聞社



野球殿堂博物館では、全国中等学校優勝野球大会(現在の夏の甲子園大会)の第1回大会開催から今夏で100年となるのを記念して、特別展「高校野球と野球殿堂」を開催し、高校野球の歴史と野球殿堂入りの方々の方々の高校野球での球歴を紹介しております。

春夏とも歴代最多優勝回数を誇り、史上唯一の夏3連覇を達成した中京商(現・中京大中京)吉田 正男投手(92年野球

殿堂入り)着用ユニホームをはじめ、春、夏どちらかで3回以上優勝した各校ユニホームや、第26回大会優勝の海草中(現・和歌山県立向陽高校)真田 重蔵投手(90年野球殿堂入り)使用グラブ等、様々な資料を展示中です。



### 同時開催 阿久 悠「甲子園の詩」特別展示

・会期 ～9月6日(日) ・会場 アマチュア野球コーナー

1979年から2006年までスポーツニッポン紙上で連載された作家・阿久 悠氏の「甲子園の詩」から名勝負9編のパネルや直筆スコアブック等を展示しております。

展示 ・第74回大会 明德義塾対星稜「無念の夏か」 ・第88回大会 早稲田実対駒大苫小牧「二〇〇六年 いい夏」他

### 甲子園歴史館とのタイアップ企画を実施

2015年7月28日(火)～9月6日(日)まで、他方の施設の入館券を提示すると、入館料割引を受けることができます。

〈当館〉大人600円→500円、小・中学生200円→150円、〈甲子園歴史館〉おとな600円→500円、こども300円→200円



## 殿堂入りの人々を語る(48)

### 父 伊達 正男の思い出

廣瀬 多可子 (1989年野球殿堂入り 伊達 正男氏次女)



1989年野球殿堂入り  
伊達 正男氏

早いもので父 伊達 正男が永眠してすでに20年余になろうとしています。私は小さいころから身体があまり丈夫でなく、スポーツも不得手だったので、野球のこともあまり知りませんでした。ただ子供のころ、父が昔、早稲田の選手であったことや、昭和の初期の日米野球で活躍したことなどは、母から聞いて知っておりました。しかし平成元(1989)年に父の野球殿堂入りが決まって、マスコミで色々報道され、表彰式に家族の一員

として私も出席した時点から、改めて「野球界では昔は有名な人だったんだなあ」と実感するようになりました。

昭和6(1931)年に父がまだ早大の選手だった時に来日した全米選抜チームの名投手、レフティーグローブ選手と父が日米両チームの選手同志として並んでいる写真と、同9(1934)年に全米オールスターチームが再来日した折に、やはり全日本の一員として参戦した父が、米国のスーパースターベーブ・ルースと肩を組んでいる写真が、我が家の居間に飾ってあり、これを眺めては、若き日の父の姿を偲んでおります。子供の頃、飼っていた犬にルーやベシィ、ジヨンなどの外国名をつけていたのもルー・ゲーリックなどにちなんだ名で、父の日米野球に対する思い入れが強かったことが理解できます。阪神大震災の時は、すでに父は亡くなっており、母一人住んでいた実家が大破し、当時近くに居た私が母を助けて大事な家財類を拾い出しました。そのとき、飾り棚にあった日米野球のサインボールや、ベーブ・ルースの写真などを取り出そうとすると



1934年日米野球でベーブ・ルースと

「新聞社などにお貸しする時は必ず手袋を着用し指紋は付けぬ事」と書いた父のメモが置いてありました。そこで軍手を着用して指紋を付けぬように拾い出したことなど昨日のこのように思い出されます。朝日新聞の元社長で父の市岡中学の先輩でもられる廣岡 知男様が父の墓参りに来て下さったとき、「伊達君は時間があるとよく故人(三原 脩さんなど)の墓参りに行くんだよ。頭が下がるね」と言われ、父の知らない一面を見たようで、嬉しく思いました。父とは野球の話はほとんどしたことがありませんが、家庭では大変やさしく、子煩悩な父でした。姉と私をよく可愛がってくれて、父のオルガン伴奏で「都の西北 早稲田の杜に……」などの歌を教えてくれ、よく一緒に歌ったものです。おかげで私は今でも上手に歌えます。その後の人生で私が落ち込むようなことがあっても、「山よりでっかいシシは出ん」、「この世で起ったことは必ずこの世で収まる」という父の信念で、私を励ましてくれました。どんな出来事にもあまり動ぜず沈着冷静に振舞えた父は、やはり若い時に神宮の大観衆の中でのプレーで鍛え上げられたからでしょうか。これなど小心な私としては大いに教訓になりました。父の思い出は尽きませんが、父が亡くなる前に親交のあったベースボール・マガジン社の池田 恒雄社長と共に、もう一度野球の聖地クーパースタウンを訪れたかったことや、「私の昭和野球史」に続いて、野球界の下積みでありながら黙々と努力されていた方々の話を書きたがっていたことなどを実現させてあげたかったと思っております。

野球殿堂博物館 トピックス (2015年4月~7月編)

**【4月8日】  
メヒア選手(埼玉西武)  
来館!**

埼玉西武ライオンズのエルネスト・メヒア選手が来館されました。

ライオンズコーナーの前で  
廣瀬館長と記念写真



**【5月2日】  
西崎 幸広氏、  
津野 浩氏が来館!**

日本ハムファイターズ元投手の西崎 幸広氏、津野 浩氏が来館されました。

左から津野氏、西崎氏。  
当館所蔵の自身ゆかりの  
資料を手に記念撮影



**【5月14日】「マツダオールスターゲーム2015」の要項発表記者会見開催!**



会見当日の様子

野球殿堂ホールにて、「マツダオールスターゲーム2015」の要項発表記者会見が開催されました。会見では、開催概要が発表された後、オールパシフィックの工藤 公康監督、オールセントラルの原 辰徳監督、ドリームキッズチャレンジアンバサダーの稲葉 篤紀氏が登壇され、インタビューも行われました。



左から工藤監督、原監督



会見終了後、当館所蔵の稲葉選手ゆかりの資料と  
記念撮影 (左から廣瀬館長、稲葉氏)

**【5月27日】三浦大輔投手 (DeNA)  
23年連続勝利達成試合ウイニングボール展示!**

横浜DeNAベイスターズと三浦 大輔投手兼投手コーチのご協力により、三浦投手の23年連続勝利達成試合ウイニングボールと、同投手着用ユニホーム、帽子の展示を行いました。三浦投手は、2015年5月5日の対ヤクルト戦(横浜)で今季初登板初先発。プロ野球タイ記録の23年連続勝利(中日山本昌投手、ソフトバンク工藤監督と並ぶ)を挙げました。(展示は7/17まで)



**【5月28日】  
セラテリ選手(埼玉西武)  
来館!**

東京ドームで開催される交流戦・巨人対埼玉西武の試合前に、埼玉西武ライオンズのアンソニー・セラテリ選手が来館されました。館内では当日限定で「ライオンズデー」を開催しており、ライオンズ歴代ユニホームの特別展示や、ライオンズゆかりの野球殿堂入りの方々へのレリーフなどをご覧になりました。

特別展示の前で記念撮影



**【6月20日】中日 谷繁監督兼選手、和田選手、  
記録達成球、バット寄贈!**

谷繁 元信監督兼選手(中日ドラゴンズ)は、2015年5月4日の対阪神戦(甲子園)で、自身の持つプロ野球記録を更新する27年連続本塁打を達成しました。また、和田 一浩選手(同)は、6月11日の対千葉ロッテ戦(QVC)でプロ野球通算2000本安打を達成しました。当館では6月20日、両氏および中日ドラゴンズのご協力により、記録を達成したボールと達成時使用のバットをご寄贈いただきました。

記録達成球、バットとともに記念撮影





**【6月22日】「世界野球プレミア12」記者会見開催！**

野球殿堂ホールにて「世界野球プレミア12」に関する記者会見が開催されました。「世界野球プレミア12」は、世界ランキング上位12カ国が参加し2015年11月に初めて開催される国際大会で、同日、台湾にて1次ラウンド試合日程が発表されました。今回はこの発表を受け、侍ジャパン・小久保 裕紀監督、侍ジャパン特別顧問・王 貞治氏、熊崎 勝彦コミッショナーが登壇され、大会に向けた意気込み等を語られました。なお、本記者会見は休館日の館内を利用して開催されました。

左から王特別顧問、小久保監督、熊崎コミッショナー



記者会見後、王氏（1994年殿堂入り）の野球殿堂レリーフの前で記念撮影

**【6月28日】東京六大学野球連盟新入部員約230名来館！**



当日の様子

東京六大学野球連盟に所属する各大学の野球部新入部員が参加する「東京六大学野球連盟 合同新人研修会」(会場：明治大学) 終了後、約230名の新入部員が野球殿堂博物館を見学しました。

**【6月29日】森 友哉選手(埼玉西武ライオンズ) 来館！**

埼玉西武ライオンズの森 友哉選手が来館され、同日スタートの特別展「高校野球と野球殿堂」を見学されました。同展では、森選手および埼玉西武ライオンズのご協力により、大阪桐蔭時代の2012年に春・夏連覇を達成した際の優勝記念メダル(計2点)をお借りし展示しています。



展示を見学する森選手

**【6月29日】「野球守」を侍ジャパン大学日本代表チームに贈呈！**

当館特製の「野球守」を、6月29日に開催されたユニバーシアード日本代表壮行試合「侍ジャパン大学日本代表 対 NPB選抜」の試合前に、大学日本代表チームに贈呈しました。当館では、今後も侍ジャパンの全世代の選手たちに贈呈する予定です。



廣瀬館長より善波 達也監督(中)と坂本 誠志郎主将(左)に贈呈

**【7月15日】西濃運輸野球部(大垣市) 来館！**

第86回都市対抗野球大会に出場する西濃運輸野球部の林 教雄監督や選手の皆さんが来館され、館内の企画展「都市対抗野球展」などを見学しました。



野球殿堂ホールで記念撮影

**【7月19日】トークイベント「甲子園と私」を開催！**



当日の様子

高校野球100年記念特別展「高校野球と野球殿堂」開催を記念して、井上 明氏と島村 俊治氏をお迎えし、トークイベント「甲子園と私」を開催しました。井上氏は松山商のエースとして、1969年第51回全国高校選手権大会決勝対三沢戦で太田 幸司投手と投げ合い、延長18回引分け再試合を制し見事全国優勝を成し遂げ、のちに朝日新聞の記者を務められました。また、島村氏はNHKアナウンサーとして永年にわたり多くの名勝負の実況を務められました。当日は、延長戦の映像を観ながら、島村氏に試合の経過をご説明いただき、

井上氏に各カウントでのチームの作戦や心境を詳しくお話いただきました。また、井上氏が記者としてご覧になった高校野球の中で特に印象に残った名勝負・名場面について、貴重なエピソードをご披露いただきました。参加者の皆さんは、普段聞くことのできない数々のお話に聞き入っていらっしゃいました。



左から島村氏、井上氏

The Baseball Museum



## 「12球団デー」を開催!

4/8 北海道日本ハムファイターズデー  
水



B・B、カピー、ポリーが来館し、ファンと一緒に館内見学。

東京ヤクルトスワローズデー

5/16 土



ヤクルトのユニホームや用具を特別展示。

6/3 オリックス・バファローズデー  
水



オリックス（阪急・近鉄）のユニホームや用具を特別展示。

6/29 福岡ソフトバンクホークスデー  
月



ハック、リック、ホックが来館し、図書室でファンブックを熟読。

読売ジャイアンツデー

4/11 土



ジャイアンツのユニホームや用具を特別展示。

野球殿堂博物館では、今年もプロ野球12球団のファンクラブ会員様へのサービスとして、東京ドームでの試合開催日各1日ずつ「球団デー」を開催しました。当日限定で小・中学生の有料会員は入館無料とし、特別展示やイベント開催の他、入館時に会員証をご提示いただいたお客様（先着300名）にはオリジナルポストカードをプレゼントしました。

6/20 中日ドラゴンズデー  
土



谷繁監督、和田選手の記録達成の資料寄贈セレモニーを開催。

7/3 東北楽天ゴールデンイーグルスデー  
金



クラッチ、クラッチーナ、東北ゴールデンエンジェルスが来館。

※千葉ロッテマリーンズデー（9/2）の様子は次号で紹介いたします。

5/13 広島東洋カープデー  
水



当日来られなかったスライリーが7/1に来館し、ファンと記念撮影。

5/28 埼玉西武ライオンズデー  
木



レオとライナが来館し、図書室で司書のお仕事を体験。

6/24 横浜DeNAベイスターズデー  
水



DB.スターマンが来館し、ファンと一緒に館内を見学。

阪神タイガースデー

7/11 土

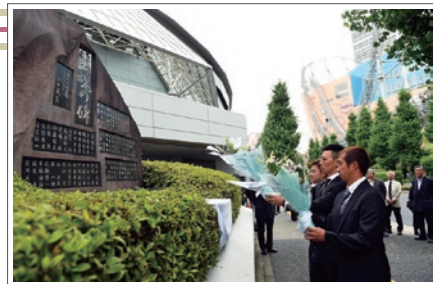


トラッキーが来館しファンと館内を見学。廣瀬館長と記念撮影。

## 【7月17日】プロ野球選手が「鎮魂の碑」に献花

戦後70年にあたる本年、戦没されたプロ野球選手の名が刻まれた「鎮魂の碑」を嶋 基宏選手（東北楽天）、東出 輝裕選手（広島東洋）、森 友哉選手（埼玉西武）が訪問し、献花を行いました。

「鎮魂の碑」は、戦没されたプロ野球選手の霊を慰めるため、1981年に鈴木 龍二セ・リーグ会長（当時）ら有志の手によって建立され、現在73名の方のお名前が刻まれています。



野球殿堂博物館では、戦没された野球選手の情報を収集しております。

### プロ野球選手

#### 《情報収集を行う範囲》

- ・戦没されたプロ野球選手の方で、「鎮魂の碑」にお名前が無い方について
- ・現在、「鎮魂の碑」に、お名前が刻まれている方について

### アマチュア野球選手

#### 《対象となる方の範囲》

旧制 中等学校野球の選手権大会（夏）、選抜大会（春）の本大会出場者、大学野球のリーグ戦出場者（東京六大学、東都大学、旧 関西六大学、旧 関西学生の各連盟）、都市対抗野球本大会出場者。

#### 《情報収集を行う範囲》

- ・上記の範囲の野球選手のうち、戦没された方で、「戦没野球人モニュメント」にお名前が無い方について
- ・現在、「戦没野球人モニュメント」に、お名前が刻まれている方について

情報をお持ちの方は、こちらまでご連絡いただきたく、お願いいたします。

〒112-0004

東京都文京区後楽1-3-61

Tel 03-3811-3600

Fax 03-3811-5369

担当：筆谷（ふでたに）

## 博物館からのお知らせ

### ▶ 理事会

・5月21日(木)、都内のホテルにおきまして、理事会を開催致しました。

議題1. 平成26年度事業報告・決算報告・監査報告の承認について  
2. 会議日程の承認について など

・6月8日(月)、都内のホテルにおきまして理事会を開催致しました。

議題1. 理事長（代表理事）の選定について  
2. 業務執行理事の選定について など

### ▶ 評議員会

・6月8日(月)、都内のホテルにおきまして評議員会を開催致しました。

議題1. 平成26年度貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認について

2. 定款変更の承認について  
3. 理事及び監事の選任について など

### ▶ 職員の異動

6月1日付で中本 夏樹管理部長が、(株)東京ドーム人事部キャリア開発担当部長に異動となりました。

《新任》事業部長 筆谷 敏正（ふでたに としまさ）



1962年9月2日生まれ 東京都出身  
1986年早稲田大学第一文学部卒業。  
同年(株)後楽園スタジアム（現：(株)東京ドーム）に入社。販売部、施設部、飲食&物販部、東京ドームホテルなどを経て、2015年4月28日付で野球殿堂博物館に外向。

《新任》事業部次長 安田 知生（やすだ ともお）



1967年5月16日生まれ 神奈川県出身  
1991年立教大学経済学部卒業。  
同年(株)東京ドームに入社。  
販売部、遊園地、飲食&物販部などを経て2015年4月28日付で野球殿堂博物館に外向。

皆様、どうぞよろしくお願いたします。

●編集後記 夏休み期間中は、イベントが盛りだくさん。当館のホームページをチェックして、ぜひご来館下さい。紙面の都合により、「知ってほしいこんな資料」と「こんにちは図書室です」は休載いたします。

### ▶ 販売

●「野球殿堂 2015」 価格 2,700円（税込）

野球殿堂の本が刊行されました！  
前回の『野球殿堂 2012』から、新たに殿堂入りされた10名の紹介に加え、館内や展示品の紹介、殿堂 Q&A など新しい項目も増え、野球殿堂のオフィシャルガイドになっています。



●「野球守」 価格 800円（税込）販売中！

「ケガをしないよう」、「野球が上手になるよう」、「野球の試合に勝てるよう」等、みなさまの野球を応援するお守りです。  
袋の中にはグローブの革で作られたお守りが入っています。



**博物館のご案内**

場 所 東京ドーム21ゲート右  
開館時間 3月1日～9月30日 AM10時～PM6時  
10月1日～2月末日 AM10時～PM5時  
(入館は閉館の30分前まで)

入館料 大人 600円 (500円) } ( ) は  
高・大学生 400円 } 20名以上の団体  
小・中学生 200円 (150円)  
65歳以上 400円

休館日 月曜日(祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み中は開館  
年末・年始(12月29日～1月1日))

《8月・9月・10月の休館日》 ※8月の休館日はありません。  
9月 7日・14日・28日  
10月 5日・19日・26日

### 野球殿堂博物館 Newsletter 第25巻 第2号

2015年7月31日発行(年4回発行)  
編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館  
(旧・財団法人 野球体育博物館)  
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61  
Tel 03 (3811) 3600 Fax 03 (3811) 5369  
<http://www.baseball-museum.or.jp/>





# The Baseball Hall of Fame and Museum

## 公益財団法人 野球殿堂博物館

### リレー随筆 (60)

#### 「適応」する力

競技者表彰員会委員会幹事 霜田 聖 (読売新聞社)

「適応力」という言葉がある。新しい環境に変わった人間が、いかに切り替えて、そこに対応できるか、という能力だ。

2009年から3シーズンにわたって、米大リーグを取材する機会に恵まれた。渡米していきなり驚かされたことがある。当時米大リーグ、ロサンゼルス・ドジャースに在籍していた黒田 博樹投手(現広島東洋カープ)の投球を見た時だ。

黒田投手については広島でエースとして活躍していた時から、何度も球場で見ていた。速球でぐいぐい押す姿は、いわゆる「本格派」というイメージにぴったりの投手だと思っていた。

ところが、米国で見た黒田投手は違った。時折、日本で投げていたような伸びのある力強いストレートは見せるものの、ほとんどの直球は、打者の手で微妙に揺れるツーシーム。次々と三振を奪っていった広島時代と違い、バットの芯を外して丁寧にゴロを打たせていた。

聞けば、その前年に米国に渡り、自分のまっすぐでは通用しないことを痛感したという。それでも1年目に9勝(10敗)を挙げていたが、自分のスタイルをあっさりで見直し、メジャーに「適応」しようとする姿勢に驚いた。

日本からメジャーに挑戦する場合、それまでの経験を生かして、とにかく自分のスタイルを貫いて活躍しようとする選手が多い。例えば1995年に近鉄バファローズからドジャースに移った野茂 英雄投手は、近鉄時代そのままの投球スタイルで13勝(6敗)を挙げている。私が渡米した当時、ボストン・レッドソックスにいた松坂 大輔投手も、投球スタイルは西武ライオンズ時代とあまり変化を感じなかった。

どちらが正しいのか判断は難しい。ただ、米国で長い間安定した成績を残せるか、と考えた場合、黒田投手のように順応しようとする新たな道を探った方が、より大きな成功に近づけるような気がする。

そのバランスがもっともうまくとれていたのが、フロリダ・マーリンズに所属するイチロー選手ではないだろうか。

彼の場合、渡米する1年前の2000年、大リーグ挑戦を視野にパワーアップを図ろうと、筋力トレーニングを始めたが、メジャーで実際にプレーした1年目のシーズン後、トレーニングで増えた体重を元に戻してしまったという。

理由は「感覚として体が重い」ということだった。日本のプロ野球よりも試合数が多いうえ、移動続きの大リーグで、もっとも怖いのは故障だ。少しでも違和感が出れば、けがにつながる危険が生まれる。そうした「異変」を敏感に察知し、常に体の隅々にまで神経をいきわたらせているイチロー選手は、パワーをつけることよりも、試合で最高のパフォーマンスをし続けることを選んだ。

方向性が定まれば、向かう道も見えてくる。日本では年間20本以上の本塁打も記録しているが、メジャーでは安打を放つことに徹している。打撃練習で柵越えを連発する姿に、シアトル・マリナーズ時代にチームメイトだったケン・グリフィー・ジュニア選手は当時、「もっと本塁打を打てるはずだ」と話していたが、一度決めたスタイルを変えることはなかった。「米国で活躍するために、どういうスタイルでプレーすべきか」を、とことんまで考え抜いたからこそ、自信を持って臨んでいるのだろう。

どんな人生でも環境や立場が変わる「転機」というものはある。その時に、それまでの自分のスタイルを貫くべきか、周囲を見極めて「適応」していくかの判断を迫られる。野球から学ぶことは多い。